

土浦平和の会

ニュースNO・85 1999年12月

発行 土浦平和の会
 事務局 土浦市神立町2664-2
 TEL 31-9122

21世紀を平和の世紀にするために

12月8日土浦不戦のつどい に参加しよう！



12月8日は太平洋戦争開戦の日です。戦後日本国民は、平和憲法の制定を歓迎し、一部右翼的改憲論の動きに反対してきました。いま、国会で憲法調査会設置が決まり、九条改憲が公然と語られるようになりました。

政府はいま普天間基地の沖縄県内移転に固執し、名護市民の願いを踏みにじろうとしています。岩国では大規模な基地拡張工事が進められ、茨城でも百里基地の拡張が計画されています。日本中いたるところがアメリカ軍の練習場になり、アメリカ軍事基地強化、自衛隊の軍事力強化と合わせて、日米共同軍事演習の強化によって、新ガイドラインの具体化が進められようとしています。

日本航空は労使交渉の席上「旅客便で武器・弾薬を輸送する」方針を明らかにしました。「業務指示に従わない場合には何らかの処分がある」ことを示唆しました。機長組合は「チャーター便、旅客便を問わず、国際民間航空条約、航空法に違反する軍事物資輸送には反対する」としています。

一方自治体に対する協力要請についても、すでに説明会がおこなわれ、政府・自治体・民間の戦争協力の体制を整えようとしています。いま私たちは、自衛隊がアメリカの世界戦略に引き込まれていく事態をくい止め、平和外交政策を推進しなければなりません。そのために何ができるのかみんなで考えてみましょう。

茨城県（大津）にあった秘密基地

いばらきコープのピースバスツアーに参加して、風船爆弾遺跡と震洋特別攻撃隊の錬成基地跡を見学してきました。「ふ」号作戦といわれた風船爆弾は、大本営直属の秘密部隊として、茨城県大津の第1大隊、千葉県一の宮の第2大隊、福島県勿来の第3大隊が編成され、1944年11月初旬から翌年4月初旬までに9,300個が放球された。太平洋上空の高度8,000~12,000メートルのジェット気流に乗って280個がアメリカ本土に届いたという。人的被害は「オレゴンの悲劇」と言われている6人だけであったが、原因不明の爆発事故、山火事、不発気球による事故がアラスカ、カナダ、アメリカ合衆国からメキシコまでおよんだ。アメリカは科学者4,000人を動員して対策を練り、西海岸に特別航空隊を編成した。トルーマン大統領は「猛毒ガスや細菌を積んだ風船爆弾を使うのではないかと懸念。偏西風が吹く前に戦争の決着をつけたいと考え、原爆の使用を決断したのではないかとされている。終戦直後、731部隊よりも早くその痕跡が消滅されたので長い間、その存在が知られなかったという。

新ガイドライン法の
もとで
茨城の基地は・・・

茨城県平和委員会 1999年11月

平和シリーズパンフ
NO.3 1冊100円



文責 井上仁志

行事ごよみ

- 11・30 革新懇世話人会（1中地区公）
- 12・ 2 東葛コープ基地見学ツアー（土浦・阿見）
- 12・ 8 12・8不戦のつどい（1中地区公民館）
- 12・12 茨城コープ平和のつどい（コープ牛久店）
- 12・14 土浦平和の会理事会（1中地区公）
- 1・21 土浦平和の会新年会（予定）

よくわかる

「茨城の原子力施設」のはなし

- と き 12月12日（日）
13:30から
- ところ 1中地区公民館3階
- 講師 青柳長紀氏（元原研研究員）